# 道徳の時間学習指導案

三次市立三良坂中学校
指導者　Ｔ１
　　　　Ｔ２

１　日　時　　平成２９年１１月１０日（金）　第２校時

２　学　年　　第２学年２２名(男子７名，女子１５名)

３　場　所　　中学校棟　２学年教室

４　主題名　　より一層深い人間関係　【　内容項目　Ｂ　友情・信頼　】

５　ねらい　　赤鬼と青鬼の性格や互いに対する思い，行動の意図について考えることを通して，尊敬に支えられた友情関係の尊さに気づき，様々な悩みや葛藤を経験しながらも互いに自分自身を見つめながら，信頼に基づいたより一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

６　教材名　「ないた赤おに」　出典【　金の星社　】

７　主題設定の理由

〇主題観・価値観

本主題は，「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」Ｂ－（８），「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」をもとに設定した。

友情とは，互いに変わらない信頼があって成り立つものであり，相手を敬愛する気持ちが根底にある。その敬愛の気持ちは，相手の成長と幸せを願う気持ちを生み，そこから互いに励まし合い，高め合い，協力を惜しまない関係が生まれるものと考える。

中学生の段階では，心身の発達が著しく親や教師といった大人から自立しようとする発達の段階にある。その過程において世代の違いによるものの見方や考え方，価値観の違いを強く意識するようになるため，心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願う気持ちが高まってくる。その一方で，人間関係の中で傷つくことを恐れる余り，無批判に同調したり，最初から一定の距離を取った関係を維持しようとする。また，情報化の進展に伴い，SNS 等による物理的なつながりで精神的な安定を図るなどの表面的な人間関係の中で，生徒達は日々生活を送っているものと考える。

しかし，友情とはそうした表面的なつながりで満足するものではなく，互いの個性を認め，相手への尊敬と幸せを願う関係であるということを理解させたい。そうした互いの関係を築いていきたいという思いが強ければ強いほど，悩みや葛藤が生まれるが，そうした衝突を避けず，共にそれを乗り越えることで，生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築けるのであり，より一層深い人間関係が築けるものと考えられる。真の友情を築くためには悩みや葛藤は避けては通れないものである。そして，こうした悩み葛藤を経て得られる互いに満足するより一層深い人間関係は，相手に求めるだけではなく自分から進んで育んでいく態度や姿勢が求められるものと考える。

よって，こうした中学生の時期に，友情を培うために自分はどうあればよいか，友情とは何かについて考え，より一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を育むことは重要であると考え，本主題を設定した。

○生徒観

１学期に本学級の生徒を対象に行った生徒質問紙調査「i-check」内にある友人関係についての質問項目及び，独自に行ったアンケートにおいて以下の結果が出た。

≪i-check 結果≫　（生徒２１名回答）

| 質問項目 | 肯定的評価 | 否定的評価 |
|---|---|---|
| 自分には，いいところがあると思いますか。 | ７１．４％ | ２８．６％ |
| あなたの気持ちを分かってくれる友達がいますか。 | ９５．２％ | ４．８％ |
| つらいことや困ったことがあったとき，何でも本音で話せる友達がいますか。 | ９０．５％ | ９．５％ |
| あなたが頑張ったとき，友達から，頑張ったね，すごいね，とほめてもらったことがありますか。 | １００％ | ０％ |
| つらかったときや，悔しかったとき，友達からの優しい言葉で心がなぐさめられたことがありますか。 | ８１．０％ | １９．０％ |
| 学校の授業やクラスの役割などで，自分は周囲の人から期待されているんだな，友達から頼りにされているんだな，と感じることはありますか。 | ７６．２％ | ２３．８％ |

≪事前アンケート結果≫　（生徒１９名回答）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 親友がほしいですか | はい | | １８名 |
| | いいえ | | 1名 |
| 親友とはどんな存在か | 双方向 | 一方通行（すれ違い） | |
| | **自他共に築いていく段階** | **自分から相手への意識のみの段階** | **相手から自分への意識の段階** |
| | ○二人でいて話したり何もしたりしなくても苦にならない人<br>○同じことで喜べる人<br>○楽しいことも辛いことも一緒に分かち合える<br>○一緒に色々楽しめる人<br>○ほとんどのことを言い合える人<br>○家族にも言えない悩みなど何でも話し合える | ○大好き<br>○ずっと一緒にいたい | ○自分と気の合う人<br>○自分を怒ってくれる<br>○自分を助けてくれる<br>○頼りに出来る<br>○何でも分かってくれる<br>○一緒にいて楽しい人<br>○味方になってくれる |
| 親友がほしくない理由 | ○距離が近すぎるのは面倒くさい | | |

生徒質問紙調査「i-check」においては，比較的肯定的な回答が多いことが分かる。しかし，「あなたの気持ちを分かってくれる友達がいますか。」「つらいことや困ったことがあったとき，何でも本音で話せる友達がいますか。」と回答している生徒が９０％を超え多いものの，「つらかったときや，悔しかったとき，友達からの優しい言葉で心がなぐさめられたことがありますか。」という質問項目への回答が約８０％に下がることから，人にはなかなか見せたくない自分の弱みについてまで，安心してさらけ出せる関係にまでは至っていないのではないかと思われる。自分の弱み，悪さもこの人なら全て出せるというような関係こそ，真の友情関係ではないかと思われる。

また，「学校の授業やクラスの役割などで，自分は周囲の人から期待されているんだな，友達から頼りにされているんだな，と感じることはありますか。」という質問項目が７６．２％と友人関係に関する質問項目の中で最も低いことから，友人関係に満足できていない現状があるのではないかと推測される。主題観の中でも述べたが，友情とは互いの個性を認め，相手への尊敬と幸せを願う関係であるため，そうした関係が築けていれば，友人から期待や頼りにされているという感情も高まるのではないかと思われる。

そして，独自に行った事前アンケートについて，友情関係を築くために必要な姿勢について互いに築いていく姿勢が重要であるという考えに至っている生徒が最も多かったが，まだ相手に求めるだけに留まっている生徒も多いことが分かる。自分に何かをしてもらえるのが友情であると捉えていては，自らも進んで築いていく姿勢が消極的であると考える。

また，１名の生徒のみ「親友」はいらないと回答し，煩わしいものであると捉えていることが分かる。その理由として距離が近すぎるのは面倒くさいと捉えているため，絶対に親友はいらないというのではなく，程よい距離を築いていくことを避けているように考えられる。

○教材観・指導観

本授業では，浜田廣介作の児童文学である『ないた赤おに』を教材として取り上げる。人間と友達になりたいと願う赤鬼のために，青鬼は自分が悪役を演じてまで赤鬼のためを思い行動する。青鬼のおかげで赤鬼の願いは叶ったが，そのあと青鬼は自分と関係をもっていたらせっかく人間たちと仲良くなれたのに，また関係が崩れてしまうからと赤鬼に置手紙を残してしばらく旅に出て行ってしまう。青鬼からの手紙を読んだ赤鬼は，青鬼の心からの友情に気付き涙を流す。赤鬼と青鬼の手紙に込められたそれぞれの思いや行動を通して，友情の尊さや友情を深めるために大切な姿勢について深く考えることができる教材である。

指導にあたり，本授業では問題解決的な授業の形態を取り「友情を育むために大切なものは何か」という学習課題を設定し授業を進める。

導入では，生徒の友情観を問う事前アンケートの内容を振り返り，学習への動機づけを行う。

中心発問に至るまでの基本発問では，赤鬼・青鬼それぞれの思いや行動について，自分はどちらの思いや行動に共感できるか，似ているかと問い，それぞれがもつ良さについて共感させることを通して，赤鬼・青鬼を自分自身のこととして自我関与させる。そして，赤鬼・青鬼は互いに良さをもつが，その良さでさえ時には，悩みや葛藤を生んでしまうという点に気づかせ，中心発問へとつなげていく。

中心発問では，「友情を育むために大切なものは何か。」と学習課題を直接問い，「尊敬と信頼にもとづいた友情関係の尊さに気付き，様々な悩みや葛藤を経験しながらも互いに支え高め合いながら，より一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。」という本時のねらいへとつなげていく。

終末では，「友情を育むために自分自身はどうあるべきだろう」と問いかけることで，友情を育むために大切な姿勢について気づかせ，友達に対する接し方や価値観を内省化させることで，様々な悩みや葛藤を経験しながらも互いに支え高め合いながら，より一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度へとつなげていく。

８　指導のポイント

（1）小中９年間の発達段階における【　友情・信頼　】のとらえ

| 段階 | 学習指導要領（ねらい） | ポイント | 児童・生徒の言葉 |
|---|---|---|---|
| 低学年 | 友達と仲良くし，助け合うこと。 | ・友達と仲良くする。<br>・友達と助け合う。 | ・友達と一緒にいると楽しい。<br>・友達と一緒なら頑張れる。<br>・友達をたくさんつくりたい。 |
| 中学年 | 友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと。 | ・友達と理解し合う。<br>・友達と信頼し合う。 | ・友達には良いところがある。<br>・友達と心から信じ合える。 |
| 高学年 | 友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。 | ・友達と学び合う。<br>・異性を理解する。 | ・友達からいろいろと学ぶことがある。<br>・男子も女子もお互いの良さを認め合おう。 |
| 中学生 | 友情の尊さを理解して心から信頼できる友をもち，互いに励まし合い，高め合うとともに，異性についての理解を深め，悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。 | ・友情の尊さを理解する。<br>・友達と励まし合う。<br>・友達と高め合う。<br>・悩みや葛藤を乗り越え，人間関係を深める。 | ・互いに励まし合えるような関係を築いていきたい。<br>・悩みやつらいことがあっても一緒に乗り越えられるような関係になりたい。<br>・相手に求めるだけでなく自分からもより良い人間関係を築く姿勢を持たないといけない。 |

（2）主体的に学び合う授業づくりについて

○導入の工夫

・生徒の現時点での友情観を明らかにするために事前アンケートを行い，その結果を導入で振り返ることで，教材への課題意識をもたせる。

○中心発問へのアプローチ

・赤鬼，青鬼それぞれの良さや共感する点について考えさせることで自我関与させる。
・心情円盤を用い，生徒が語りやすい工夫を行う。
・相手のことを思って行動したことであっても，悩みや葛藤を生むことを理解させた上で学習課題である「課題「友情を育むために大切なものは何か」」を考えさせる。

○自分の生活へつなげる工夫

・「友情を育むために大切なもの」を導き出させたうえで，「友情を育むために自分自身はどうあるべきだろう」と問いかけることで，友達に対する接し方や価値観を内省化させ，自分自身に必要な姿勢に気づかせ，悩みや葛藤を経験しながらも互いに支え高め合いながら，より一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度につなげていく。

（３）協働的に学び合う授業づくりについて

・赤鬼，青鬼どちらの思いや行動に共感できるか自分の意見や立場を明確にして話し合いが行えるように心情円盤を用いる。
・全体交流で出てきた意見に対して問い直しを行わせることで，自分の考えを広げたり深めさせたりする。

９　評価

（１）授業評価のためのルーブリック

| Hop | Step | Jump |
|---|---|---|
| 赤鬼と青鬼の性格や互いに対する思い，行動の意図について考えることができる授業であった。 | 尊敬に支えられた友情関係の尊さに気づくことができる授業であった。 | 様々な悩みや葛藤を経験しながらも互いに自分自身を見つめながら，信頼に基づいたより一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養うことができる授業であった。 |

（２）自己評価のためのルーブリック

| レベル１ | レベル２ | レベル３ |
|---|---|---|
| 【　　　　】について，考えることができた。 | 【　　　　】についての自分の考えを，他者に伝えることができた。 | 【　　　　】についての考えを，友達の考えとの相違点をもとに，深めたり広げたりすることができた。 |

※【　　　】内には，本時の学習で学べた価値(キーワード)について，児童生徒が自己評価し記入する。
期待する児童生徒の記述(キーワード)

［　友情の尊さ　　信頼関係　　支え合い　　認め合い　　高め合い　］

１０　準備物

教材，道徳ノート，発問短冊，赤鬼の手紙，青鬼の手紙，心情円盤，ホワイトボード
ホワイトボードマーカー，ネームプレート

## １１　レインボープログラム

### 「今」に感謝し生きる

**中心となる学習活動：文化祭（特別活動）**

**道徳の時間**Ｄ生命の尊さ　**「命の重さ」**（あかつき）

**命の重さや命につながるたくさんの人の思いを知り，生きていることのありがたさを感じさせる。**

**10月**

**主体性を育てる**

【特別活動における道徳教育のねらい】

自分の良さを生かし，さらに伸ばしていこう。

道徳の時間
「虎」
（あかつき）
Ａ　向上心，個性の伸長

振られた脇役に不満を持っていた八輔が，虎になりきろうと決意した心情を考えることを通して，自分を見つめ，自分のよさを生かしさらに伸ばしていくために前向きに取り組もうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

**自己有用感を育てる**

【特別活動における道徳教育のねらい】

文化祭において，個性を生かし役割と責任を果たす。

道徳の時間
「明かりの下の燭台」
（あかつき）
Ｃ　よりよい学校生活
　　集団生活の充実

鈴木さんが涙を笑顔に変えることができた理由を考えることを通して，集団の中で自分の個性を生かし，一員としての役割と責任を果たそうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

**コミュニケーション能力を育てる**

【特別活動における道徳教育のねらい】

互いを信頼し，学び合い，協力して，文化祭を成功させていこうとする。

道徳の時間
「ないた赤鬼」
（金の星社）
Ｂ　友情・信頼

赤鬼と青鬼の互いに対する行動や思いについて考えることを通して，尊敬と信頼にもとづいた友情の尊さに気付き，様々な悩みや葛藤を経験しながらも互いに支え高め合いながら，より一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

**10月～11月**

**道徳の時間**Ｄよりよい生き方　**「足袋の季節」**（あかつき）

**2月**

○　**期待する意識の流れ**

**自分を見つめよう。⇒　自分にできることを見出し，役割に責任を持とう。**

**⇒　互いに高め合える人間関係を築いていこう。**

１２　学習展開

| | 学習活動 | 主な発問と予想される児童生徒の心の動き<br>(〇主な発問，◎中心発問，・予想される児童生徒の反応) | Ｔ１ | Ｔ２ | 指導上の留意点<br>☆評価の観点(評価方法) |
|---|---|---|---|---|---|
| 導入 | １「親友」についてのアンケート結果を振り返る。 | ○「友達」についてのアンケート結果を振り返ろう。<br>**課題「友情を育むために大切なものは何か」** | アンケート紹介<br>課題提示 | 板書 | ○事前アンケートの内容を振り返り，学習への課題意識をもたせる。 |
| 展開 | ２教材「ないた赤おに」について話し合う。 | ○「ないた赤おに」を聞き話し合いましょう。 | 範読 | | |
| | (１)友達との関わりにおいて赤鬼と青鬼が持つそれぞれの良さについて考え，共感する。 | ○友達との関わりにおいて，あなたは赤鬼と青鬼のどちらの立場に共感できますか。<br>赤鬼派<br>・色々な人と関わりたい。広い人間関係。<br>・多くの人と関わる方が楽しく生活できる。<br>・色んな関わりを持つことでたくさん学べる。<br>・赤鬼のやさしい所。<br>・一生懸命な所。人間関係を広げる努力。<br>・いろんな人と仲良くしたい。<br>・明るいところ。<br>・鬼と人間の仲を取り持ち，誤解を解こうとしている所。<br>補）赤鬼は，青鬼のことをどう思っていたのだろう。<br>・多くいる友達の一人。<br>・何でここまでしてくれるのだろう。<br>・自分にここまでしてくれるとは思っていなかった。<br>青鬼派<br>・赤鬼のために協力する姿勢。<br>・誰かのために一生懸命なところ。<br>・自分だけではなく，赤鬼の幸せも願っているところ。<br>・誰かに尽くせるところ。<br>・赤鬼を心から愛し，尊敬している。<br>・友達の役に立ちたいと思っている。<br>・赤鬼の幸せが自分の幸せだと思っている。<br>補）青鬼はどうしてここまで赤鬼に尽くせるのだろう。<br>・赤鬼のことが好きだから。<br>・人柄に親しみを感じるから。<br>・困難があっても一生懸命取り組んでいる姿を応援したいから。<br>・自分にない良さがあり，尊敬しているから。 | 発問<br>実態把握 | 板書<br>補助発問<br>実態把握 | ○赤鬼と青鬼それぞれが持つ良さを考え共感させるために，心情円盤を用い表現させる。<br>○互いに良さを持っていても，時には悩みや葛藤が生じる場合があることに気付かせる。 |
| | (２)友情を育むために大切なものについて話し合い，考える。<br>(個人→グループ→全体)<br>**【かんがえる】** | ◎二人に共通して友情を育むために欠けているものは何だろう。<br>赤鬼<br>・青鬼の思いに気付くことができなかった。<br>・舞い上がって自分のことばかり考えていた。<br>補）青鬼を迎えに行くべきか。<br>「行く」<br>・感謝や謝罪の気持ちを伝える。<br>・気が済むまで全ての思いを伝える。 | 発問<br>実態把握<br>問い直し | 板書<br>補助発問<br>実態把握<br>問い直し | ○赤鬼と青鬼が再び一緒になる，もしくは離れ新たな人間関係を築いていくかは分からないが，二人に共通している人間関係を築くために必要な態 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 【問いを**さ**がす】 | 「行かない」<br>・迎えに行っても青鬼は喜ばない。<br>・つらいけど行くのを我慢する。<br><br>・悪いと思っていても断りきれなかった。<br>・気が進まないまま青鬼の言うとおりにしてしまった。<br>・自分の思いを青鬼に伝えきれていない。<br>補）どうして本当の思いを伝えられなかったのだろう。<br>・相手に申し訳ない。相手に悪い。<br>・自分が相手に嫌われるかもしれない。<br>青鬼<br>・自分の思いだけで突っ走ってしまった。<br>・赤鬼を思ってやったことが，かえって赤鬼を傷つけた。<br>・相手の思いを確認せず一方的だった。<br>・手紙という形で済ませて，自分の思いを赤鬼に直接伝えなった。<br>補）なぜ直接思いを伝えなかったのだろう。<br>・直接伝えたら赤鬼が傷つく。<br>・傷ついた赤鬼を見たくなかった。<br>・直接伝える勇気がなかった。<br>共通点<br>・気が済むまで語り合う。<br>・相手に自分の思いをしっかりと伝えること。<br>・自分が傷ついても，言うべきことは言うこと。<br>・相手を傷つけることがあっても，避けずに思いを伝える。<br>・相手の良さや課題もすべて含めて伝える。<br>補）本音で語り合えるのはなぜだろう。<br>・認め合える，分かり合える関係だと信じているから。<br>・互いに頼り切れる関係だから。<br>・遠慮がない関係だから。<br>・相手を信頼しているから。 | | | 度について気付かせる。<br>○一度で共通の課題を見出すことは難しいので，赤鬼と青鬼それぞれの課題について個人で考えた後，グループで共通の課題を見出していく。<br>○各班の意見をホワイトボードに記入させ，全体で交流する。<br>○それぞれの意見に対し問い直しを行うことで，共通点を見出していく。 |
| 終末 | 3自分の生活を振り返る。(内省化)<br>【**みら**いへのヒント】 | ○友情を育んでいくために，自分自身はどうあるべきだと思いましたか。<br>・信頼関係を築くのは簡単ではないけど，自分から築いていく姿勢が必要だと感じた。<br>・友情は，相手に求めるだけではなく，自分からも働きかける必要があると思った。<br>・これから友達と意見がくい違ってぶつかり合うことがあるかもしれないけれど，友情を育むためには，自分から踏み出さなければならない。<br>・尊敬できる関係を築くためには，相手の個性や良さだけでなく，課題も含めて伝える姿勢が大切だと思った。 | 発問<br>実態把握 | 実態把握<br>板書<br>補助発問 | ○学んだ価値について，自分の生活や経験を振り返り，これからの自分に生かす思いを道徳ノートに記入させる。<br>☆様々な悩みや葛藤を経験しながらも互いに自分自身を見つめながら，信頼に基づいたより一層深い人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 4 文化祭を振り返る。 | ○２年生で作り上げた文化祭の劇や合唱を振り返りましょう。 | 発問 | | うことができた。（発言，ノート） |
| | 5 ルーブリックで本時の自己評価をする。 | ○今日の学習について，振り返りを書きましょう。 | 発問 | | ○　道徳プログラムの関連を生かし，「友情・信頼」の価値を自分の生活に重ねて深めさせる。 |

## 13　板書計画

ないた赤おに

**アンケート結果**

学習テーマ　「友情を育むために大切なものは何か」

○赤鬼と青鬼のどちらの立場に共感できますか。

**赤鬼**　広い人間関係　大勢と楽しく生活
色々な関わりで学べる
優しい所　明るい　仲良く
一生懸命　鬼の誤解を解こうとする

**赤鬼が好き**
**人柄に親しみ**
**応援したい**
**自分にない良さ**

→　***思いのすれ違い***　←

**多くいる友達の一人**
**自分をここまで・・・**

**青鬼**
協力姿勢　赤鬼の幸せを願う
尽くす点　心から愛し尊敬
赤鬼の幸せが自分の幸せ

◎二人に共通している友情を育むために欠けているもの。

**赤鬼**
自分ばかり
思いに気づけなかった
気づいていたが，断り切れない自分×

では迎えに行く？
「行く」　「行かない」
感謝　相手は喜ばない
謝罪　つらいが我慢
全てを伝える

**青鬼**
相手意識×　一方的
思いを直接伝えていない
→傷つけた

どうして直接伝えなかった？
直接言うと赤鬼傷つく
傷つく赤鬼を見たくない
傷つきたくなかった（自分も）

**共通**
全て語り合う，伝える，困難を避けない
相手・自分が傷ついても

**本音**
**認め合えている，分かり合える**
***信　頼***
遠慮しない→高め合い・成長

未来へのヒント
・自分から信頼を築く姿勢
・自分からも働きかける
・自分から踏み出す勇気
・良さだけでなく，課題も含めて全て伝える姿勢が互いを成長させる